

かお・人インタビュー

2014年 9月 5日(金)

国土交通省
九州地方整備局
北九州国道事務所

鶴敏信

所長 インタビュー

◎北九州地区との関わりは

当事務所には独身時代のおよそ30年前に在籍していました。当時は、北九州と大分を結ぶ国道10号の改築が全盛期で、いわゆる北大道路と称して国道のバイパス事業や現道拡幅を実施していましたが、私も行橋BPや椎田BPの担当として、地元協議などに奔走していたことを思い出します。こちらに赴任してから、あの当時のいろいろな事業が全て完成しているのを見ると感無量です。

寮生活のにぎやかな独身時代を満喫していましたが、寮は木造長屋10部屋の合宿所のような建物でした。小倉の繁華街に近く、酒場のネオンに誘われて寮の仲間と夜の街に繰り出し、酒を酌み交わしながら仕事のことだけでなくいろんなことを熱く語り合ったものです。住めば都、懐かしい思い出の地です。

◎北九州国道事務所の紹介と26年度事業の概要について

改築事業(約40億円)の主な箇所は、国道201号飯塚庄内田川バイパスの4車線化、権限代行の国道322号八丁峠道路(嘉麻市側)を実施するほか、3号黒崎バイパス、10号豊前拡幅、201号香春拡幅の整備促進など。国道201号塚庄内田川バイパスは今年度及び平成28年度に4車線化の部分開通予定で、現在、橋梁工事、舗装工事を実施中。残る区間の筑豊烏尾トンネル(L=1,530m)については両坑口から掘削を計画し、既に糸田工区はこの7月から本格的に掘削、飯塚工区は先日契約し、今後着工の予定です。

国道322号八丁峠道路(嘉麻市側)は、トンネル新設で、昨年8月から掘削を開始し、工事全延長2,716mのうち8月までに約1,550mを掘削しています。交通安全事業は、3号清水交差点改良、10号朽網交差点改良が今年度完成予定。新規の3号今吉古賀交差点改良は設計中。その他、4か所の歩道整備



H26.3 撮影：『東九州自動車道と国道201号行橋インター関連開通状況』

を実施中です。電線共同溝事業は、3号前田地区と200号幸神地区で実施しています。

◎防災・減災による安全・安心の住みよい地域づくりについての考えを

とても重要なことだと思います。これからは防災・減災、維持管理、老朽化対策など安全・安心の分野に予算、技術などの軸足が移っていくことも明白です。

風水害の対応として、当事務所管内では、降雨による事前通行規制が3区間、豪雨や台風の影響を強く受けるなど、災害リスクを抱えた地域を所管し、すでに今年度は12回の体制を発令、事前通行規制の準備で3回現地出動しました。特に最近では短時間での豪雨が発生し、従前にも増して迅速な対応が求められています。

南海トラフ巨大地震への対応では、管内で震度5弱程度、津波の影響も少ないと予測、管内自治体や被害想定が大きい東九州地域への支援がメイン活動と想定しています。具体的には地震発生直後から自治体にリエゾン派遣、道路啓開調査の出動を想定し、9月1日の防災訓練においても出動訓練などを行いました。

これらの災害対応には道路管理者だけでなく、地域建設業界の協力も必要不可欠であり、災害協力業者42社と協定を締結、今年から測量設計地質部門も新設し、土木、橋梁、舗装、機械、電通、測量設計、地質

との協力体制を整えています。また、自治体支援も必要で、近隣事務所と分担し、自治体との大規模災害時の応援に関する協定を締結。平成24年の九州北部（13人）、平成25年の山口・島根（3人）など全国各地の大災害に対して、リエゾンやテックフォース隊員として当事務所職員も出動しています。

社会資本の信頼性向上（老朽化が進むインフラ）については、待ったなしの取り組みが必要です。当事務所管内の橋梁358橋のうち、50年以上経過の橋が20%、10年後には40%になります。直轄だけでなく、自治体への支援も必要、市町村を含む県内の道路管理者で福岡県道路メンテナンス会議を設置していますが、道路の点検、診断、措置（補修等）、記録のメンテナンスサイクルを確立し、持続させていく仕組みを構築していかなければなりません。また、自治体への技術支援（予算、人材、技術）等の検討も実施していきます。

◎品確法など、いわゆる“担い手3法”に対する事務所として取り組みについて

改正のポイントは、将来も含めた公共工事の品質確保と担い手の確保・育成、それに伴う発注者責務の明確化であり、多様な入札契約制度の導入・活用です。具体的な取り組みはこれからですが、すでに整備局で打ち出している対策はできるものから確実に実施し



ていきます。特に今後、維持管理、老朽化対策など管理することに軸足が移っていくので、積算、発注、技術者確保などこれまでの考えだけでは持続できない部分が出てくると考えられます。いずれにせよ、現場の声をしっかり聞きながら、必要な仕組みづくりを実施していくことが大事だと思います。

◎地域建設業界への要望・メッセージ

道路管理者だけで、災害対応やインフラの維持管理はできません。近年のゲリラ豪雨に対する災害や地震時における災害対応（応急対応、復旧対応等）において重要な役割を担ってもらっているのが地域の建設業者であり、保有する重機等の資機材や専門知識を発揮して復旧活動にご尽力いただき、感謝しています。

また、平時においてもインフラの維持管理は大変重要なことであり、補修等工事を地域建設業者をお願いしているところです。維持管理や防災・災害対応においても地域建設業者の力が不可欠と思っています。そのためにも、持続的な基盤を構築し、今後の維持管理、防災対応が可能な体制づくり、制度設計が必要だ

と考えています。あわせて、地域建設業者の地域における貢献を広く広報していくことも大事なことだと思っています。

◎これまでの赴任地の思い出

いろいろな思い出の中で、霞が関時代が特に印象に残っています。平成の初期、配属先が道路局企画課で、道路の全体予算や今はなき五ヶ年計画などのとりまとめ、国道昇格、事業調整費などの担当でしたが、業務処理のスピードが速く、調整部署も多岐にわたる中で、専門用語がわからず、勤務終了時間も無きに等しく、戸惑いや途方に暮れつつも、周囲の仲間に助けられて、大きなトラブルもなく、思い返せば多少は楽しく過ごせたよき時代です。そのほか、武雄河川事務所や整備局用地部にも在籍し、貴重な体験をさせて頂くとともに、周りの方々にも恵まれ、楽しい思い出がたくさんあります。



◎プロフィール

昭和36年1月24日生まれ（53歳）

佐賀県佐賀市出身

昭和59年→北九州国道事務所に配属、本局道路計画二課、国土交通省道路局企画課、佐賀国道、武雄工事、本局道路計画一課、九州新幹線道路調査事務所、長崎工事、用地部、有明海沿岸道路出張所などに勤務。前職は本局道路部地域道路課長。

◎生きがいや趣味、特技について

これといった趣味や特技はありません。ただ、農家の長男坊として生まれ育っているので、休みの日などは、家庭菜園のようなものですが、体力づくりを兼ねて畑仕事に汗をかいています。また、学生時代に友人と40日間、車中泊で日本一周をしましたが、ルートは全て一般道で、そのときに国道番号などを覚えました。一番下の子供が学生なので、手が離れるまでもう少し時間がかかりそうですが、嫁さんと一緒に車中泊の遠方旅行をしたいなあーと一人で考えています（嫁さんは“私はいかない”と言っています）。